

多文化共生社会づくり推進事業報告書

1 委託業務名・概要

(1) 業務名 外国籍県民委交流推進事業

「揚輝荘」を多文化交流コミュニティとして構築

(2) 概要（事業の要約・事業の目的など）

文化・芸術・芸能に関する国際的なイベント等を実施することで揚輝荘を多文化共生コミュニティとして構築するとともに、外国籍県民と日本籍県民の交流を行うことによって人的ネットワークの形成を図る。

2 実施事業について

(1)実施時期 平成 18 年 7 月 1 日（土）～平成 19 年 2 月 28 日（水）

(2)実施地域 名古屋市千種区 揚輝荘

(3)事業の具体的内容

9月10日（日）多文化交流イベントプログラム 「日本伝統文化に親しむ会」

- ・ スピーチ「異文化社会を楽しむ」愛知淑徳大学 ジョリー幸子先生
- ・ 箏と篠笛演奏 ・ 生け花実演 ・ お茶会 ・ 揚輝荘見学 ・ 懇親会

10月21日（土）多文化交流イベントプログラム 「多文化交流会」

- ・ スピーチ「多文化共生について」愛知県立大学 山本かほり先生
- ・ 二胡演奏 ・ フィールドワーク（日泰寺など） ・ お茶会（野点） ・ 箏と篠笛演奏
- ・ ビルマダンス ・ 懇親会

2月4日（日）多文化交流イベントプログラム 「異文化交流フェスティバル」

- ・ 津軽三味線演奏 ・ インド舞踊 ・ ライオンダンスと豆まき（中国正月と節分の伝統行事）
- ・ 生け花実演 ・ 唄 ・ 箏 ヴァイオリン演奏 ・ 懇親会

3 実施結果（実施の効果等）

9月10日（日）多文化交流イベントプログラム 「日本伝統文化に親しむ会」

参加者：多国籍外国人50名（内留学生34名）（女性23名、男性27名）

日本人 53名 合計 103名

日本伝統楽器の箏、篠笛の演奏、楽器説明を行い、実演体験希望者も多数あった。

三賞亭でのお茶会、石田流華道の生け花実演を行い、日本文化の紹介は好評だった。

懇親会では参加者の紹介を行い、21カ国の多彩な顔ぶれで国際色いっぱいであった。

10月21日（土）多文化交流イベントプログラム 「多文化交流会」

参加者：多国籍外国人54名（内留学生26名）（女性31名、男性23名）

日本人 70名 合計 124名

山本先生のスピーチ「地域の中の国際化・定住外国人との共生への課題」をテーマにスライドとレクチャー。続いて張照翔さんの二胡の演奏と語りに参加者が引き付けられた。

次に、8グループに分かれてフィールドワーク 日泰寺と縁日、鉦薬師、を見学した後、揚輝荘北庭園に移り、野点の抹茶を楽しみながら、白雲橋での箏・篠笛の演奏を聴いた。

更に、小原流の生け花実演の技術に参加者が感心した。最後に、ビルマダンスが披露され、懇親会では参加者を紹介しながら和やかな交流となった。

2月4日（日）多文化交流イベントプログラム 「異文化交流フェスティバル」

参加者：多国籍外国人25名（内留学生8名）（女性18名、男性7名）

日本人 35名 合計 88名

津軽三味線はデュオによる演奏が披露された。続いてインド古典舞踊、独特の手、体の所作、顔の表情を参加者も一緒に行って、インド舞踊を少しだけ体験。その後、サリーの着付けレクチャーがあり、希望者が多く好評だった。

午後は日本伝統行事、節分豆まき、中国正月風景のライオンダンスを北庭園で行った。

地階ホールに戻り、石田流の生け花実演の後、中国の留学生でプロ歌手デビューした媛媛さんに日本語、中国語で歌っていただき、最後に箏、ヴァイオリンの演奏を行った。

イベントが盛りだくさん過ぎて予定より1時間遅れで懇親会に入り、スタッフ手作りのチャイを飲みながらの自己紹介、意見交換会を行った。

効果

「異文化を見聞き、体験し、楽しみ、理解する」という点では、重点的な効果があった。参加者からも、異口同音に「楽しかった、また参加したい」という声を聞いた。その後も、外国人団体、国際交流団体、留学生支援団体などとの情報交換が進んだ。「揚輝荘の会」としても、関連情報、事業経験、ノウハウの蓄積ができた。

4 事業の特質（工夫した点など）

（1）事業の位置づけ

まちづくり資源として「揚輝荘」というハードウェアがそこにあるだけでは価値が限定されるが、イベント、展示、案内・解説などのソフトウェアを付加することによって、その魅力が増大し、地域コミュニティとして構築が促進されると考える。

揚輝荘は、建築・庭園緑地、歴史文化、国際交流など多様な魅力を持つ、まちづくり資源であるが、今回は特徴的な戦前の国際交流（社会貢献、留学生受入）の歴史にスポットを当て、現在の国際交流、多文化共生とどうリンクさせるかに配慮した。

内外の文化、芸術、芸能の実演・体験によって楽しく異文化を知り、日本市民とのテーマの無い懇談（ふれあい）の時間を設けることによって交流・理解を促進する。

（2）事業運営上の工夫

参加者募集

- ・会場の地階ホールは80名定員のため、多国籍県民50名、一般市民30名を募集目標に設定した。
- ・以前に留学生との国際交流会を行ってチャンネルが出来ていたが、さらに各大学の国際交流課にチラシを持参し配布をお願いした。
- ・愛知県国際交流協会のAIAメールマガジンに掲載を依頼し、効果があった。
- ・名古屋国際センターでは案内チラシを置き、ナゴヤカレンダーメールマガジンへの掲載も効果的であった。
- ・外国人居住者への参加呼びかけが難しかったが、九番団地の日本語教室のアウラドキューバに依頼し、多数のブラジル、ベトナム人の参加に結びついた。

揚輝荘と国際交流・貢献の関連づけ

- ・AIAメールマガジンで日本ミャンマー協会の記事を知り、コンタクトを取ったところ、多数のミャンマー人の参加となった。
- ・名工大、インド・アナ大学からのミッションを受け入れた。
（3月に名大、タイ・チュラロンコン大からのミッションを受け入れる）
- ・ミャンマー、タイ、中国、韓国、インドなど、東南アジアからの参加が多かったことは、揚輝荘が戦前のアジアの留学生を受け入れて、国際交流の場であったこととのつながりを確認した。

実体験型イベント

- ・文化の紹介は、単なる実演だけでなく、解説型、体験型を取り入れ、みんなが参加するイベントとした。イベントでは日泰寺縁日の日を選び、屋台など日本の風俗を見聞し、四国八十八ヶ所、錠薬師も含め、フィールドワークを実施した。

通訳グループとの連携

- ・鶴舞ボランティア通訳グループ、愛知善意ガイドネットワーク（AGGN）、国際千種クラブ（ITC）の3グループとのネットワーク・協働が出来た。入会者も増えた。

アンケート調査

集計：23名（男性10名、女性13名）

年代：20代 2名 30代 7名 40代 1名 50代 7名 60才以上 6名

感想：豆まき楽しかった、インド舞踊、生で迫力あった（50代女性）

三味線の二人がよかった（30代女性）

スタッフに名前（名札）を入れて欲しい（60代女性）

いろいろな国の芸能を楽しめました（30代男性）

イベントが盛りたくさん過ぎた（50代女性）

今後も国際交流を続けて欲しい（30代女性）

日本の良さを外国の方はもちろん、私達日本人にも感じられた（30代女性）

5 今後の課題

外国人居住者にもっと参加を呼びかけたい。

（コミュニティへのチャネル確保、日本語教室など）

外国人チャネル・ネットワークができたが、そのフォローが課題。

（個人情報問題、イベントの継続可否など）

日本人の参加者を増やしたい。

（外国人の参加が多く、枠がなくなった。ニーズは多いと思われる）

懇親会・意見交換会の時間を長く取りたい。

（出し物を最小限に。日本人も懇談したい人が多い）

スピーチやレクチャーの内容について意見交換の時間を取りたい。

（一方通行になりがち）

継続的開催が望ましいが、財源、会のパワーなどが課題。

6 その他参考事項

揚輝荘は今年度末に名古屋市に寄付されることになった。

イベントの開催時期、形式、費用など課題が多いが、構築された人的ネットワーク、ノウハウを継承して、多文化共生社会づくりの推進に貢献していきたいと考える。

揚輝荘を会場にして、外国人コミュニティと会との共催で行う方式も考えられる。

以上